



*contest*

第57回  
留学生による  
日本語スピーチコンテスト

2022年12月11日（日）13：30～  
at 早稲田大学大隈記念講堂

主催：早稲田大学国際学生友好会(WIC)

協賛：新日本宝石株式会社、一般社団法人 日本在外企業協会、  
公益財団法人 昭和池田記念財団

早稲田大学オープンカレッジ修了生の会 稲修会

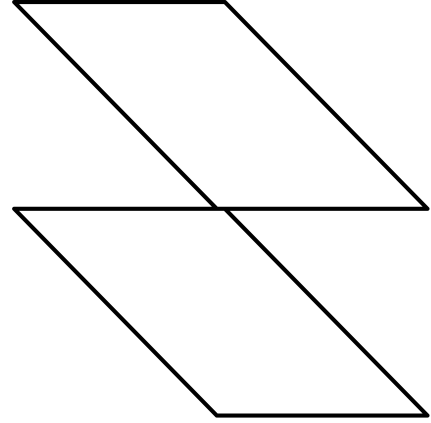
後援：早稲田大学日本語教育研究センター、  
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

協力：各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会





# 目次



## — ご挨拶

- 4 幹事長挨拶
- 6 スピーチコンテスト幹事挨拶

## — 本日の流れ・ご紹介

- 8 本日のプログラム
- 9 審査員・各賞紹介・審査基準
- 11 アドバイザー制度・2部紹介

## — スピーチ文集

- 12 スピーチ文集・目次
- 13 『異国人としての私』 李勇健(リ・ユウケン)
- 15 『Don't be perfect, Do your best』 鄒東佑(スウ・トウユウ)
- 17 『一期一会 / 挨拶から始まる出会い』 チュー・イーキュー
- 19 『国民性からみる交流と共栄』 王景弘(ワン・ジン)
- 21 『私の恋人』 高尚楡(カオ・シャンユー)
- 23 『私を救った母の言葉』 タン・ブンリム
- 25 『見た目の不安を克服して、自分の気持ちの持ち主になりましょう。』  
呉郡堯(ゴ・グンギョウ)
- 27 『故郷はミックスフレーバ』 王羽妃(オウ・ウキ)
- 29 『今を生きる』 トーマス・ルイス・ルデン

## — 出場者・班長インタビュー

- 31 1班 李勇健(リ・ユウケン)
- 32 2班 鄒東佑(スウ・トウユウ)
- 33 3班 チュー・イーキュー
- 34 4班 王景弘(ワン・ジン)
- 35 5班 高尚楡(カオ・シャンユー)
- 36 6班 タン・ブンリム
- 37 7班 呉郡堯(ゴ・グンギョウ)
- 38 8班 王羽妃(オウ・ウキ)
- 39 9班 トーマス・ルイス・ルデン
- 40 早稲田大学国際学生友好会 活動紹介

# 幹事長挨拶

## 「スピーチコンテスト開催にあたって」



早稲田大学国際学生友好会(WIC)  
第66代幹事長  
河野美波

本日はお忙しい中、第57回 留学生による日本語スピーチコンテストをご視聴いただき誠にありがとうございます。早稲田大学国際学生友好会(Waseda International Club 略称 WIC)におきまして、第66代幹事長を務めさせて頂いております、早稲田大学教育学部3年の河野美波と申します。

WICとは、歴史ある早稲田大学公認の国際交流サークルです。例年、様々なイベントを通して留学生と交流し、親睦を深めています。WICは3つのイベントを軸としています。それが、6月に行われる「Short Home Stay」、10月に行われる「屋台村」、そして本日開催される「スピーチコンテスト」です。

「Short Home Stay」はWIC会員の家に宿泊し、日本での生活を留学生に体験してもらうイベントです。「屋台村」は、OBOG向けの稲門祭に屋台を出店します。約1ヶ月の準備期間で、衣装と看板の作成をします。そして、当日は世界の料理を自分たちで作り販売することで、海外の文化を学び、留学生とWIC会員が親睦を深めるイベントとなっています。

今年度は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、昨年と比較して、対面イベントを多く開催することができました。私たちは入学当初からオンラインの大学生活を経験した世代にあたります。これまでオンラインで留学生と交流する機会がほとんどでしたが、今年度は2年ぶりの「屋台村」開催をはじめとして、今まで以上に密な国際交流を体験できました。対面での活動を通して、会員同士の仲や留学生との関わりを一層深められたと感じております。

そして、本日開催される「留学生による日本語スピーチコンテスト」は、昨年と同様にオンラインでの開催になりました。しかし、今年も無事にスピーチコンテストを開催することができ、非常に嬉しく思います。今日までの約一か月、出場する留学生と会員はミーティングを重ねてまいりました。会員は、出場者が伝えたい思いを引き出したうえで、スピーチの準備をサポートし、留学生はサポートを受けながら、練習に練習を重ね、スピーチを作り上げてきました。本日はその成果を発揮して、皆様にスピーチをお届けいたします。出場者それぞれに魅力がありますので、楽しみながら聴いていただけたと思います。

最後になりますが、今年度もオンラインという形ではございますが、スピーチコンテストを開催できることに喜びを感じると共に、本コンテスト開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様、また、本日ご視聴していただいている皆様に、弊会会員一同、心より御礼を申し上げます。

# 幹事挨拶

## 「スピーチコンテスト開催にあたって」



早稲田大学国際学生友好会(WIC)  
第57回留学生による  
日本語スピーチコンテスト幹事  
棚橋梨実花

本日はお忙しい中、第57回留学生による日本語スピーチコンテストにお越しいただき、ありがとうございます。早稲田大学国際学生友好会におきまして、当コンテストの幹事を務めさせていただいております、早稲田大学社会科学部3年の棚橋梨実花と申します。

今年度のスピーチコンテストのコンセプトは、パレットー言語を越えて繋がる場所ーです。新型コロナウイルスの感染拡大により、国際交流はおろか、会員同士の交流、また外部の方々と関わる機会が減少しております。その中で、当スピーチコンテストをパレットとして交流をし、それぞれが個々の色を持ち寄って最終的にカラフルな交流の場が完成するというのを願ひ、決定いたしました。

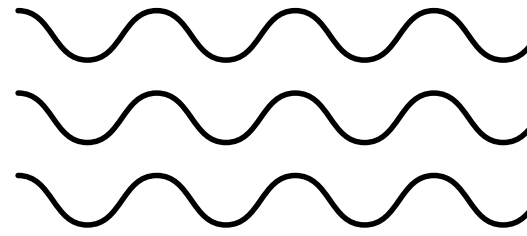
新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちのサークル活動は甚大な影響を受けました。大学入学から約3年間、様々なイベントが延期、中止、オンライン開催となり、それらの言葉を聞くたびに、やり場のない喪失感に襲われてきました。そのような状況の中でも、私たちは私たちにできる最大限のことを模索し続け、本日まで活動をしていきました。近年、本イベントは新型コロナウイルスの影響を受け、模索をしながらながらもオンラインと対面の両立をすることで開催することができております。今年度57回目の開催にあたり、長い歴史を持つ当コンテストの伝統により一層の重みを感じております。

依然として不安が残る状況の中、今年度は9名の留学生が日本語、そしてスピーチに対して熱い思いを持ち、出場を決意いたしました。彼らの日本語学習に対する真摯な姿勢から、弊会会員も非常に多くのことを学んでおります。弊会会員にとっても、出場者とともに作り上げる当スピーチコンテストは思い入れが強いものとなっています。当会では、出場者1名ごとに会員15名程度の班を組み、会員は出場者の伝えたい想いに寄り添いながら、スピーチ発表に向けてサポートをしてまいりました。そして数多くのミーティング、原稿の丁寧な添削、発音の練習を重ね、本日を迎えました。また、各班の活動状況を見守る中で、対面でのサークル活動ができる喜びや楽しさを噛み締めている様子を感じ取ることができました。

本コンテストは、出場者だけでなく、弊会会員の集大成となっております。スピーチから発信されるメッセージは勿論、出場者の努力、そして彼らと時間をかけて向き合ってきた弊会会との交流にも想いを馳せながら、当コンテストをご覧いただきたいと考えております。当スピーチコンテストが、留学生、当会会員が個々の色を持ち寄り、カラフルな交流の場となることを願っております。

最後になりましたが、本年度も当コンテストが開催されることに感謝の意を申し上げますとともに、このコンテストが発展し、末長く続いていくよう今後も務めてまいります。今回のスピーチコンテストを開催するにあたり、これまでに多大なご協力を賜りました関係者の皆様、そして本日のコンテストをご視聴いただいている皆様に、弊会会員一同、心より御礼を申し上げます。

# 本日のプログラム



全体司会：速水理秀

## 1. 開会式 13:30～

出場者入場・紹介  
審査員紹介  
協賛・後援各位紹介  
幹事長挨拶

## 2. 第一部 13:50～

留学生によるスピーチ

1. 『今を生きる』 トーマス・ルイス・ルデン
2. 『国民性からみる交流と共栄』 王景弘(ワン・ジン)
3. 『見た目の不安を克服して、自分の気持ちの持ち主になりましょう。』  
呉郡堯(ゴ・グンギョウ)
4. 『故郷はミックスフレーバ』 王羽妃(オウ・ウキ)

## 休憩 (10分間) 14:25～14:35

5. 『私を救った母の言葉』 タン・ブンリム
6. 『Don't be perfect, Do your best』 鄒東佑(スウ・トウユウ)
7. 『異国人としての私』 李勇健(リ・ユウケン)
8. 『私の恋人』 高尚楡(カオ・ジャンユー)

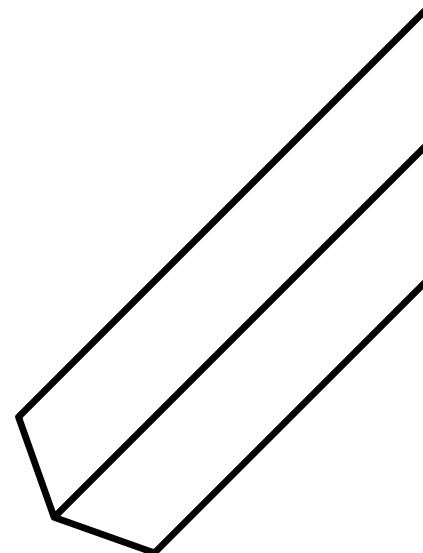
## 3. 第二部 15:20～

早稲田大学国際学生友好会会員による企画

## 4. 表彰式 16:30～

審査結果発表  
審査員代表による講評

閉会 17:10





# 審査員・協賛・後援・協力のご紹介

当スピーチコンテストの開催にあたり、ご協力を賜りました皆様に深く感謝申し上げます。

## 審査員（順不同）

一般社団法人 日本在外企業協会	中野裕道様
筑波大学 広報局次長	高井孝彰様
NHK国際放送局 多言語メディア部 専任部長	伊藤成高様
早稲田大学日本語教育研究センター准教授	久保圭様
ヒューマンアカデミー株式会社 日本語教育事業部 教室	池之内純子様

## ご協賛（敬称略、順不同）

新日本宝石株式会社  
一般社団法人 日本在外企業協会  
公益財団法人 昭和池田記念財団  
早稲田大学オープンカレッジ修了生の会 稲修会

## ご後援（敬称略、順不同）

早稲田大学日本語教育研究センター  
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

## ご協力（敬称略、順不同）

各国大使館員日本語スピーチコンテスト実行委員会

## 配信のご協力（敬称略、順不同）

早稲田大学放送研究会

# 各賞紹介

最優秀賞 :最も得点の高かった出場者に贈られる賞  
優秀賞 :二番目に得点の高かった出場者に贈られる賞  
観客賞 :観客の皆様による審査にて、最も得点が高かった出場者に贈られる賞

# 審査基準

以下の15項目について、各5段階評価、90点満点で審査をしていただきます。

留学生の主たる参加動機…「日本語の勉強に役立てたいから」

→日本語の勉強のゴールとは？

- 1 自然な日本語の文章を作ることができる
- 2 日本語を流暢に話すことができる
- 3 自分の意見や伝えたいことを正確に伝達できる

本大会では、この3つのゴールを達成するために必要となる項目を審査基準とする。審査では、三つの項目を各1～5点で採点し、集計する。

## 【文法・自然な文章】

- ・文法が適切である※1
- ・自然な語彙を使用している
- ・語彙が豊富である
- ・わかりやすい文章である※2

※1…主語と述語の対応、「は」「に」等の助詞の用法、「だから」「しかし」等の接続詞の用法を含む

※2…1度聞く・あるいは読んだときに容易に理解ができる文章を「わかりやすい」と定義する。

## 【話し方】

- ・声の大きさが適切である
- ・話す速さが適切である
- ・日本語らしい発音、抑揚で話している
- ・強調される音節や、文脈や意見によって強調される音節の変化が適切である
- ・非言語的表現（ジェスチャー・間の取り方・表情等）が適切である
- ・聴衆との（直接的、間接的な）インタラクションがある
- ・原稿ばかり見るのではなく、目線を上げて発表している
- ・自信を持って発表している

## 【伝えたいこと】

- ・伝えたいことが明確である
- ・伝えたいことが正確に伝わる文章構造である※3
- ・自分の意見を持っている
- ・自分の経験等、具体例を用いている
- ・内容に一貫性がある
- ・聴衆の感情を動かす一節がある※4

※3…主題（伝えたいこと）を正確に伝えるために必要な情報がある・段落の構成が適切である

※4…自分の経験でなくとも、具体例であればよい。わかりやすく伝える工夫として具体例があることが望ましい。

# アドバイザー制度について

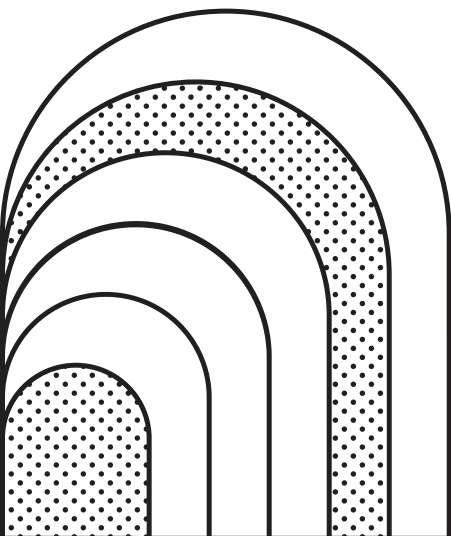
当スピーチコンテストでは、「アドバイザー制度」を導入しております。これは、出場者一人につき数名の弊会会員がグループを作り、担当アドバイザー(班員)として出場者のスピーチづくりをバックアップするものです。当コンテストでは、出場者の伝えたい「想い」「主張」を重視しています。班員は、出場者の日本語能力をフォローし、より観客の皆様へその「想い」を深く伝えるために、ともにスピーチをつくりあげていきます。

当日出場者が語る言葉は、出場者一人の「想い」だけではなく、本番までサポートしてきた班員の「想い」もめせたスピーチとなっております。各出場者の担当アドバイザーが決まってから当日までの約1か月間、出場者と班員は何度も打ち合わせ・練習をし、強い信頼関係で結ばれていきます。こうした交流も、当コンテストの醍醐味といえます。毎年多くの出場者がコンテスト終了後も弊会会員と連絡を取り合い、交流を図っています。私たち国際学生友好会では、真の国際交流を目指すため、このアドバイザー制度を取り入れています。



## 第二部のお知らせ

「留学生による日本語スピーチコンテスト」第二部では、映像やインタビューを通して、当スピーチコンテストができていくまでの過程と、私たちが日ごろ接している留学生の人となりを知ることができる内容となっております。第二部で上映される映像・コンテンツはすべて、第二部担当の弊会会員たちが心を込めて作成いたしました。ぜひご覧くださいませ。



# スピーチ文集・目次

- 『異国人としての私』  
1班 李勇健(リ・ユウケン)\_\_\_\_\_p13-14
- 『Don't be perfect, Do your best』  
2班 鄒東佑(スウ・トウユウ)\_\_\_\_\_p15-16
- 『一期一会 / 挨拶から始まる出会い』  
3班 チュー・イーキュー\_\_\_\_\_p17-18
- 『国民性からみる交流と共栄』  
4班 王景弘(ワン・ジン)\_\_\_\_\_p19-20
- 『私の恋人』  
5班 高尚楡(カオ・シャンユー)\_\_\_\_\_p21-22
- 『私を救った母の言葉』  
6班 タン・ブンリム\_\_\_\_\_p23-24
- 『見た目の不安を克服して、自分の気持ちの  
持ち主になりましょう。』  
7班 呉郡堯(ゴ・グンギョウ)\_\_\_\_\_p25-26
- 『故郷はミックスフレーバ』  
8班 王羽妃(オウ・ウキ)\_\_\_\_\_p27-28
- 『今を生きる』  
9班 トーマス・ルイス・ルデン\_\_\_\_\_p29-30

※スピーチ文集は、班の番号で掲載しております。  
スピーチの順番は、8ページをご覧ください。

# 『異国人としての私』

1班 李勇健(リ・ユウケン)

日本に来てから、「日本での生活に慣れましたか」という風によく聞かれていました。ゴミの分別や、駐輪場が見つからないことなど、確かに様々な問題がありますが、基本的に大丈夫だと思います。地域によって、慣習やルールが違うということは普通のことだと思うからです。

しかし、実は日本についてあまり理解できないことがありました。それは去年の東京オリンピックの開会式を見た時のことです。その聖火のラストランナー、言わば聖火台に火をつけた方は大坂なおみさんでしたよね？正直に言って、その時に私はすごくびっくりしました。「えええ、この方の肌の色は黒いのに？」「この方は本当に日本人？信じられない！」。「もし、我が国のオリンピック開会式で聖火のラストランナーが黒人だったら、大炎上してるじゃん。」という風に様々な疑問が浮かびました。その時は大坂なおみさんを全然知らなかったもので、とりあえずインターネットでこの方の資料と生い立ちを調べてみました。その時に、「多様性」という言葉が目に入りました。そして「多文化共生」について初めて知りました。

以前から、「多様性」という言葉を知ってはいましたが、あまり深く考えたことはなかったです。かつて肌の色が違う人は同じ国の人ではないと思っていました。こういう考え方は日本に来て、自分の立場が「外国人」になった後、だんだん変わってきました。やはり、ある方が自分の国の人かどうかを判断する基準は肌の色ではなく、国の文化を受け入れるかどうかです。特にその頃のTwitterで、大会で優勝した大坂なおみさんに関するコメントは様々でした。「日本の誇りだ」に対し「黒人だから」という言葉もありました。生活の中で、乱暴な言葉をいう人はほとんどいないですが、やはりインターネット上では、自分の本音を赤裸々にいうみたいですよ。私はそこで大量のコメントを見ながら、日本語でのコメントの書き方を知りました。ちなみに、これは日本語を勉強する得策じゃないですかね（独り言）。

正直に言うと、どの国でも差別問題が存在するはずですね、この問題は私の国にもあります、いや、「あります」というより、存在しないふりをしているのだと思います。どういう意味だと思いますか。例えば多くの人々は黒人に対して無言ですが潜在的に差別しているようです。つまり、みんなは普段、口で差別を意味する言葉を言わないですけど、心からの考えでは「や～嫌だな」という風に思う人が少なくないはずですよ。まあ、特にインターネット上では差別用語、言わば自分の本音をいう人が多いみたいです。

私も、外国人としてやはり海外で生活するには、直接的または潜在的な差別を受けることは避けられないことです。その差別を受けた時に、最初はやはり気分が悪かったです、や~どうしてそんなにひどい言葉を言われたのかと悩んでいたこともあります。時間が経つにつれて、少し考えて見ると、もっと考えが出てきました。もともと国籍や肌の色によって、差別をしたり、バイアスをかけて人を判断することは人間の本能によるものじゃないですか。どの都市でも、どの国でも、どの惑星でも、このような現象は存在してます、程度によって異なるかもしれないが、あるはずですよ。なので、こういう本能による差別現象の存在を否定するべきではなく、その存在を認めた上で、この差別を緩和する方法を見つけるのは、正直に言うと、現実的な解決策だと、私は思います。

や~どうやって、こういう問題を解消できるかなぁ？実は「差別はよくない」と思っているうちに差別的発言をしたり行動を取ったりして相手を傷つけることがあります。なので、差別をしない心がけとともに、相手のことを理解することに努めることが、偏見を取り除く上で何よりも必要なことになります。お互いのことをよく知らない、理解していないからこそ人に対して偏見を持ってしまいます。差別を容易に表に出すのではなく、踏みとどまった上で相手とコミュニケーションを取り、理解することが大切です。

しかし、短期間で多文化共生社会を達成することは難しいです。多様性への理解を短期間に過度に人々に要求すると、逆に拒否反応のようなものが起こり、むしろ人々が多様性に不寛容になってしまう可能性があります。だから、我々が「多文化共生社会」を実現するためには、ゆっくりと人の持つ特性やジレンマの実態を丁寧に把握することが必要です。そして、多様性に適応するための相互理解に時間をかけてじっくり取り組むなど、長期的なビジョンを持つことが重要なのではないかと思います。

# 『Don't be perfect, Do your best』

2班 鄒東佑(スウ・トウユウ)

皆さんは今までにこのような経験をしたことがありますか。幼い頃から学んだ外国語でも、実際に外国人と喋る時に一言も言えなくなってしまうという経験です。これは、完璧主義によるものだと思います。なぜかという、すでにかかなりの単語と文法も覚えているのに、日常生活程度の話なら楽勝でしょう？そもそも誰も外国人が自分の国の言語が上手く話せるのは期待していないでしょう？完璧主義のせいで、外国語でペラペラ話せる自分を想像し、その理想の姿になるまでは、準備がまだ出来ていないという言い訳をし続けてしまいます。

私の人生も、完璧主義による大きな影響を受けてきました。

中学生の頃、台湾のあるシンガーソングライターの歌を聞いた時初めて、なんて音楽は美しいものなのかと感じました。それをきっかけに、自分もシンガーソングライターになりたいという目標ができました。。当時の私は完璧主義になっていました。シンガーソングライターには作曲能力が一番肝心だと皆さんも思うでしょう？しかし、理想的なシンガーソングライターは、やはりどんな楽器でも上手くできると思って、作曲の勉強をする前に、ピアノ、ギター、さらにバイオリンまでも学んできました。そして、国際的なシンガーソングライターになるために、将来的に歌詞を英語で書かなければならないと思って、作曲の勉強をする前に、いろんな外国語も勉強してきました。それから何年も経って、自分の目標はずっと変わらなくても、まだ本気で夢に没頭していないような気がしています。

先日、私は音楽大学の作曲科の入学試験を受験しました。試験では、自分で作曲した二曲の提出が求められました。私は、曲をつくるのは初めてでした。色々なことを勉強していく中で、もしかしたら自分でも上手に曲を作れるかもと思っていましたが、実際に曲を作ってみるととても難しかったです。一曲目の作成の途中で、どうしてもある部分に納得がいかず、完成までに長い時間をかけてしまいました。そのため、二曲目を作る時間がほとんどなくなってしまいました。一度は、今回の試験を諦めてしまおうかと思いましたが、試験を受けることは良い経験になると思い受験を決めました。二曲目は完璧を求めるのではなく、残された時間の中でその時、自分ができる最大限の努力をして作成に挑み、なんとか完成させることができました。完成した後に曲を聞いてみると、二曲目のほうができがよく、自分でも驚きました。

私は自分の人生を振り返ってみると、数少ない「やった！」と感じられた時は、100パーセントで前もって準備した時ではなく、自分が勇気を出して始めた時、最後まで最善を尽くした時でした。たくさんの社会人は若者に、「この世は残酷だよ」というようなことを言います。でもそれに対して、「実はね、この世はそれほど残酷ではない」というような言葉はほとんど言ってくれません。今ここにいる留学生たちも、早稲田の学生たちも、それぞれの夢を持って、日本に来て、早稲田から卒業して、自分の夢の人生を送るために頑張っています。だからこそ、もし将来、何か上手くいかない時、生活が思った通りにならない時、今日私のスピーチを思い出してみてください。「don't be perfect, do your best」。自分に優しく、笑顔でいたら、きっと、何かが変わってくると思います。



# 『一期一会 / 挨拶から始まる出会い』

3班 チュー・イーキュー

初めまして！おはようございます！こんにちは！こんばんは！人は様々な時に、様々な言葉を使って挨拶します。人に会った時にはどうして挨拶がこんなに重要なのか知っていますか？出会いのスタートポイントで、自分が相手に会って気分がよくなったり、今日も会えて、喜んで、わくわくしたりする、という気持ちを伝えることが理由の1つだと思います。みなさんも好きな家族や友達や先生に会った時に、嬉しくなるのではないのでしょうか？

私が日本に留学に来てから、たくさんの新しい出会いがありました。初めて会った人には「初めまして」と言います。「あなたに出会えて嬉しい」という思いを持ちながら、名前を教えあったり、会話をしたりして、ますます仲よくなります。外国人同士では、よく、日本語学習のきっかけや日本に来た理由について話しています。ある友達は大学の卒業を延期してでも、就職する前に日本に留学しようと決心して、日本に留学に来ました。あるクラスメートは親と対立しながらも、日本に留学しました。私は出会った皆の話聞いて、より彼らとの出会いを大切なことだと思うようになりました。皆が自分の人生で色々な選択をして、日本に来るという道を選んだからこそ、今の出会いがあります。もしも、友達が大学の卒業を延期せずに日本への留学を諦めていたら、今ここで出会うことはなかったでしょう。また、そもそも彼らと人生で出会えなかったかもしれない。もしかしたら、いつかどこかですれ違うだけの人になってしまったのではないのでしょうか？

私は今寮に住んでいるのですが、ある朝部屋から出たときに同じ寮の人に、「おはようございます！」と挨拶しました。そして、一緒に朝ごはんを食べながら、会話をしました。朝から牛乳を3杯も飲んで、卵を3個食べてきた人は牛乳と卵が大好きなのを知りました。また、一人でぼーっとしながら朝ごはんを食べている朝は、少し日本語で日常会話ができている朝になりました。「そうだね、朝から牛乳を3杯も飲んで、卵を3個食べている人がいるんだね」と思いながら、徒歩で通学しました。もし数年後、また朝から牛乳を3杯も飲む、卵を3個食べる人に出会ったら、きっとその人のことを思い出すでしょう。それは何よりも、この人と出会ったことの証拠ではないのでしょうか。

ある日「『星の王子様』を読む」という大学の授業のあとで、クラスメートたちに授業のディスカッションの内容について話そうと思い、「こんにちは！」と話しかけました。そして、「王子様は花を愛していますよね？」と問いかけました。すると、クラスメイトは「王子様は花を愛するべきではないと思いますよ。」と答えました。皆の頭の中が王子様と花のことでいっぱいになり、授業のあとにも、ディスカッションが続いていました。ちょうど昼ご飯の時間になったので、皆でランチに行きました。ランチのあとは、クラスメートの提案で村上春樹ライブラリーに行って、村上春樹さんの本を読んだり、村上春樹さんがよく聞くレコードを聞いたりしながら、次の授業までの時間を心地よく過ごせました。皆は特に何も話していませんでしたが、お互いに付き添う存在になりました。

「こんばんは！」サークル活動のあと、新しい仲間と駅まで歩きながら、少し交流ができました。普段どんな音楽が好きなのか、好きな歌手は誰なのかを聞いて、スポティファイでおすすめ曲を追加してもらったり、追加してあげたりしました。この人はこんな音楽を聴くんだって思いながら、この友達との距離が縮まったと感じました。時々、同じ歌か同じ歌手が好きな人に出会うこともあります。一緒に好きな歌手の話をしたり、盛り上がったり、次のライブにぜひ一緒に行くという約束をしたりして、目に見えない糸で二人が繋がれている感じもします。

皆様、今日もいい出会いがありましたか？もし、私のスピーチを聞いていただいて、皆様の中のどこかに、一つの文でも残ったり、私の伝えたいメッセージが届いたりしたら、私にとってこの時間はかけがえのない素敵な時間になると思います。人生はまだ長いと思っている人が多いかもしれませんが、明日、あるいは次の瞬間、何があるか誰にもわかりません。これから何度も会うことはあるだろうという考えがよくありますが、もしかしたら二度とは会えないかもしれません。だからこそ、毎回の出会いを大切にしましょう！

# 『国民性からみる交流と共栄』

4班 王景弘(ワン・ジン)

皆さんこんにちは。私は王景弘と申します。台湾の台北から参りました。よろしくお願ひ致します。私のスピーチのテーマは「国民性からみる交流と共栄」です。初めに、主に国民性について自分の経験を基にお話します。そして「国を超えた交流と共栄」というテーマについて、私の考えをおはなししたいと思います。

国民性というのは、ご存じのように、歴史的な背景と教育によって形成されます。そして今、台湾と中国、日本の間では経済の発展に伴って、文化の交流がますます盛んになりました。その影響で国民性は徐々に顕著となり、それぞれ、台湾は「多元」、中国は「創造」、日本は「卓越」という特徴があると考えています。

まずは台湾の「多元」についてです。1624年から1945年まで、台湾は他の国に統治され続けてきました。その結果、台湾には様々な国の文化が残りました。オランダ人のような海外志向や日本人のような規律を守る心は、そのような歴史に根差したものです。多文化に触れてきた歴史は、台湾人の心の中のみならず、周囲の人への親切さにも現れています。私の故郷である台湾で、台湾人が観光客に対してとても親切に、丁寧に接して、観光客が嬉しそうに笑っているのをよく見かけるのですが、わたしはそこに相手の目線で対応をし、誰でも受け入れる台湾人の懐の深さを感じました。

このような国民性について台湾の大手旅行会社ezTravelの陳甫彦社長は「台湾人は『多元性』を最も大切にしてきた」と私に話してくれました。私も同様に、台湾人は各国の文化、人文技術などの点に親しみを持って接していると感じています。このように台湾人はいつもおおらかで、各国の文化を積極的に取り入れようとしているのです。

その一方で、中国に目を向けてみると、中国には「創造」ということばが当てはまると思っています。私は2011年から、上海の電子商取引サイトの会社で働きました。その頃、電子商産業が急速に発展したので、私は毎日目が回るほど忙しく大変でした。それでも私の同僚たちは皆、仕事が終わってから大学に行き、電子に関する専門知識や外国語の勉強をして、より良い製品の開発とサービスの提供に努めました。それだけでなく、毎週およそ100の新しい製品の提案があり、常にマーケティングに関する会議も行われていました。そこに私は中国の強い「創造」的な国民性を感じたのです。

では、日本はどうでしょうか。私は、日本には「卓越」という言葉がふさわしいと考えています。私は今、日本で仕事をするために、東京国際大学付属日本語学校で日本語を学んでいます。そして、日本の国民性についても学んでいます。私のクラスメイトはフィリピン人が多く、漢字を勉強するのが苦手です。なので、先生は学生が勉強し易いように英語を使った教材を準備してくれています。また、授業では機会があるたびに日本人の習慣、生活のマナー、社会的ルールについても話してくれます。このように先生方はいつも学生の視点から最適な学習環境を提供し、学生は皆、この厚意に対して一生懸命に勉強しているのです。そして私はここに、先生方の相手に配慮し、細やかな教材開発やサービスの提供を心がける強いこだわりを感じました。これが日本人の卓越性を追求する精神だと思います。日本人は社会の進歩を支える縁の下の力持ち的な存在だと言えるでしょう。

冒頭で述べたように、今、台湾と中国、日本の間では経済の発展に伴って、文化の交流がますます盛んになっています。では、国を超えた交流と共栄のために、私たちはどうすればいいのでしょうか。私は各国の政府と産業間の友好的な交流を堅持しなければならないと思います。なぜなら、交流は新しいアイデアを生み出すことができるからです。人々は自国の国民性を大切にする一方で、「多元」によって他者を理解し、「創造」によって産業を活性化し、「卓越」によって技術を強化していけるでしょう。これから、互いの交流のパイプをさらに拡大していけば、それぞれの国民性を基礎に互いに高め合い繁栄することができるかと信じています。

以上です。どうもありがとうございました。

# 『私の恋人』

5班 高尚楡(カオ・シャンユー)

こんにちは初めまして

シャンシャンこと、カウシャンユーと申します。

数多くの参加者の方々の中から幸運にも本日スピーチができることを、とてもうれしく思っております。

自己紹介の代わりとしてスピーチを始める前に、私が考えたなぞかけを披露したいと思います。

「台湾のシンボルとかけまして、

駅チカのタワマンと解きます

その心は

どちらもよいち(夜市／良い地)にあるでしょう」

私の心の中には昔からずっと愛し続ける（まるで恋人のような）存在があります。。それは、、、日本です。

沖縄の下に位置し、50年の日本時代を経て台湾は文化や食事、言葉など様々な面で日本から広く、そして深く影響を受けたところが今でも多く見られます。そのため自然と日本に興味を持つようになりました。

今年の四月から日本での生活を始めました。様々な体験を通して台湾の教科書やテレビなどで得た知識と実際の日本は大きく異なることに気づくことができました。

特に私が印象に残ったのは「おもてなし」という（言葉）です。

「おもてなし」というのは、人に敬意を持ち、対価を求めない心で相手に満足してもらえるように良い姿勢で接することです。

裏表のない、つまり一途で相手のことを思い、精一杯尽くす。という日本ならではのおもてなしをたくさん経験しました。

4月に大阪へと旅をしましたが、旅先の売店で商品の問い合わせをしたところ、店員さんが丁寧に説明してくださいました。いざ会計しようとしていると「どこから来られたんですか」と店員に聞かれ、「台湾から来た留学生です」と答えたら、「私も大学の時台湾に行ったことがあります」と言われそこから会話が一気に盛り上がり、穴場スポットの紹介をしてくれたり、地元民しか知らない裏情報などたくさんのお話を教えてくれました。おまけに入学祝いとして入浴剤 ~~段落~~ ~~キッサー~~ も貰いました。感謝の気持ちでいっぱいでした。

傍から見るとただの「営業」の一つのテクニックかもしれないのですが、当時の私にとってはすごく心温まるいい思い出になりました。そして上手い事に、その店の虜になってしまいました。

ところで、おもてなしという素敵な言葉とは裏腹に、「実は建前なんじゃないの?」「ほんとはそういう風に思っていないのに、ただお客さんだから仕方なくそれっぽく振る舞うんじゃないの?」と疑問に思う方も、少なからずいるかと思います。ですが、人間というものは行動に移す前に様々な考えや思いを持っています。思ってもいないことを口に出すのは簡単そうに見えるのですが意外と難しいです。少しでも優しくしようとする姿勢やその心を持っていなければ、おもてなしをすることができないと思います。

相手の立場になって、どんな言葉をかけられたら嬉しいのか、また他の人にどんなことされたら嬉しい気持ちになるのかを考えて行動する、このおもてなし精神は日本独特のものだと思います。このおもてなしは外国人にだけでなく、日本人同士でも日々の生活の中で行われています。それは暗黙の了解です。暗黙の了解はルール的一种ですが、法律のような強制力はなく、あえて言葉にするようなこともありません。しかし、日本人は日々の生活の中で、皆当たり前のようにこのルールに従っています。例えば5分前行動。所定の時間より5分、場合によっては10分も早く行動しておくことです。では、本来の時間まで何をすれば良いのだろう」とつい思ってしまいます。他にも誰かと一緒に食事する場合、自分の料理が先に着いた時でも、相手の料理が来るまで先に食べないことが多いです。その間に鮮度が落ちるし、冷めてしまうのではないかと思います。

このように暗黙の了解は面倒で非効率的なもののように思えます。

しかしこれらの行動にもちゃんとした理由があったのです。5分前行動は相手を待たせないという日本人の気遣いが込められています。また、相手の料理が来るまで先に食べないことは、相手に対して申し訳ない気持ちや、せっかく相手と一緒にいるのだから、同じタイミングで食べたいという気持ちのあらわれだったのです。私の国台湾にはない文化だったので、すごく驚いたとともに感動しました。

日本人の思いやりやおもてなし、これこそ私が日本を好きになった理由です。

最初はアニメやドラマなどの作品を通して日本の言葉を知り、興味をもち次第に文化を理解して日本を好きになりました。日本に来て早くも8ヶ月が経とうとしていますが、始めた頃の気持ちは今も変わらず、日本のことが好きです。これからも愛し続けます。

これでスピーチを終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

# 『私を救った母の言葉』

6班 タン・ブンリム

突然ですが、皆さんは生まれてこなければよかったと思ったことはありませんか。私はあります。

私が17歳の時、私の毎日は他人の悪口で染められていました。なぜなら、貧しかったことが理由で、高校でいじめられていたからです。私は、両親が生計をたてるために昼夜を問わず働いていた、貧しい家庭に生まれました。でも、貧しい家庭に生まれたことを恥ずかしいと感じたことは一度もありませんでした。家庭の経済状況があまりよくなかったので私は勉強するかたわら、夜間と週末を利用して、アルバイトをすることにしました。それをつらいと思ったことはありませんでしたが、つらかったのは学校へ行くたびにいじめっ子にひどい悪口を言われたことでした。私の家庭の事情を知らずに、服装をからかわれました。また、私が空腹のまま学校に通っていたことを知らずに、「がりがりだな」と言われることもありました。バイトのせいで寝不足なことを知らずに、私の外見を悪く言われることもありました。17歳の私に対する悪口のうち、もっとも私を苦しめたのは「お金がないと、何もできないぞ」という言葉でした。その言葉は、寝るときにも憂鬱になるほど、いつも頭の中に残り続けました。毎日悪口に耐えていたけれども、そのことで両親を心配させないように、ずっと黙って一人で我慢するしかありませんでした。時間がたつにつれて、悪口がエスカレートしてきて死にたいと感じることもありました。

18歳で大人になった後でも、まだ自分を見失ったままでした。部屋に引きこもって、出来るだけ人と距離を取るようになりました。いじめられるとわかっていながら、学校に通って、食堂でいつも一人きりでご飯を食べていました。そういう学校生活だったので、「普通の子のように学校に通いたいなあ」といつも考えていました。18歳までの私の人生は、自分の本心に耳を傾け、それに従って生きてきたことはありませんでした。他人の言葉で自分の幸せが左右されていたからです。「お金がないと、何にもできないぞ」。私の頭にアラームのように何度も響く言葉のせいで、不眠症になってしまったり、体重が30キロほどになってしまったりしました。どんなに生活が苦しくても、この時も私はまだ黙って一人で我慢し続けていました。

19歳の時に、我慢が私をより苦しめているということに初めて気が付きました。ある日、考えた末に、いじめられていることを母に初めて話してみることにしました。母は普段、弱さを見せない人ですが、私がいじめられていることを聞いたとたん、泣き崩れてしまいました。生まれて初めて母の泣く姿を見ました。母は泣きながら私を抱きしめて、こう言いました。「あのね、ブンリム、船が沈没するのは、船の周りに水があるせいじゃなくて、水が船の中へ入ってきてしまうことが原因だよ。だから、周りに起こったことを自分の中へ入れないようにして、気持ちを軽くすることが大切だよ。」。その言葉を聞いた後、私の考え方は大きく変わりました。悪口など自分ではどうにもできないことを私の中に入れないようにし始めました。それによって19歳の私は、11歳の時からの大きな夢を叶えることができました。それは日本に留学することでした。でも、11歳の時には、留学することは夢のまた夢でした。だけど、他人の悪口を私の中に入れないようにしてから、その夢をやっと叶えられました。2年間にわたって気にしていた「お金がないと、なんにもできないぞ」という言葉が間違っていたことをようやく証明できました。もし私が今でもまだ彼らの言葉に耳を傾けていたら、こうして皆さんの前で話すことはできなかったでしょう。もしかしたら今でも私はまだ自分の部屋に引きこもって、苦しんで、眠れないままだったかもしれません。でも今の私は以前の私ではありません。私が変われたのは本当に母の言葉のおかげでした。とても貧しかったけれど、母の子供として楽しい我が家に生まれたのは本当に良かったです。今から、20歳になっても21歳になっても他人の言葉を気にせず、自分がやりたいことをやり、一生懸命夢を追求しようと思います。

もし同じように悩んでいる人がいたら、あきらめないでください。私とその状況を乗り越えることができたから、皆さんもきっとできます。一つだけ覚えておいてほしいことがあります。心から求めているものを優先することが何よりも大切です。他の人の意見を気にしなくても、自分が本当に好きなもの、興味があることに気持ちが向かっていけば、自分の世界がどんどん広がっていきます。これからは、他人になんと言われようと、自分の目標に向かって私も皆さんもまっすぐ進んでいきましょう！



# 『見た目の不安を克服して、 自分の気持ちの持ち主になりましょう。』

7班 呉郡堯(ゴ・グンギョウ)

皆さんは見た目に不安を感じたことはありませんか？「容姿不安」は中国ではホットな話題です。誰もが顔を見ている時代に、私もひどい目にあいました。

「どうして肌がこんなに弱いのか」

「どうして鼻がこんなに大きいのか」

「どうして私は美人じゃないのか」

では、一体何が美人なのでしょう？ 私たち東アジアには3つの伝統的な社会美意識があります。それは「白く細く若く」。美人だらけのこの時代に、この3つの条件を達成するために全力を尽くす人が多いです。しかし、そんなことをする価値があるのでしょうか？美人はそんなに人気があるのでしょうか？

ここでは去年中国で話題になった鄒雅琦という人についてお話しします。なんと彼女は21日間もの間お金をかけずに生活をしたのです。彼女はどうやってこの一見不可能なことを達成したのでしょうか？

まず彼女は洗練された服装とアクセサリーを用意しとても綺麗な容姿になりました。彼女はお腹が空くとレストランでずっと友達を待っているふりをしました。すると友達にすっぱかされたのかと思い彼女を可哀想と思った店長が無料の食事と羽毛布団をくれました。

また別の日には彼女はお腹がすいて、オークション会場の無料のお菓子をがつつ食べました。店員は彼女をかわいいと思って、彼女が食べ終わった後にまたたくさんあげました。

次に私の話をしましょう。数年前に大好きな人がいましたが、好きすぎて敏感になり卑屈になってしまいました。彼が周りの女の子がきれいかどうかを評価するたびに、いつも自分がこの世で一番醜いと思い、狂ったように化粧を勉強して、整形したいとまで思うようになりました。夜になると、いつも考えすぎて、一晩中眠れませんでした。自分の気持ちさえコントロールできなくて、自分のことをはっきりと認識していなくて、考えすぎて、他人の発言に安易に影響されてしまいました。友人も私の精神状態を心配して、「美の正体」という本を送ってきて、「呉ちゃんはきっと本当の自分を見つけることができると信じている！」と

言ってくれました。読んでみると、私は「このような外見至上主義の時代には、自分が楽しく生きるために美しくなるのではなく、美の奴隷になる人が多い」という恐ろしい事実を発見しました。

それから私はだんだん自分自身と付き合えるようになりました。このような経験をする若者は多いと思います。最初は自分の容姿に不満を抱いていただけでしたが、その後は自己否定、自己嫌悪に陥るようになり、さらには自暴自棄になってしまうのです。では、人生に積極的に向き合うにはどうすればいいのでしょうか。

私個人の力では大衆の美の基準を変えることはできませんが、私たち自身を変えることはできます！意地悪な人に外見を勝手に評価されたときは、気にしなければいいのです。私たちは自分の人生の主人公であり、自分のために生きていけばいいのです。容姿が悪いだけで悪口を言う人なら、そんな人と付き合う必要はありません

中国でもこういう諺があります。「美貌で他人から好かれることで、どれほどそのメリットが長続きするのでしょうか。」人を喜ばせたからといって、必ずしも人に好かれるとは限らず、むしろ真実の自分の姿を捨ててしまうことになります。だから、私たちは自分のために好きなことをすればいいだけです。

中国語に「相由心生」という言葉もあります。外見は心で変わる。私たちが本当に心を強くすれば、仕事の能力が上がり、話すレベルが高くなり、魅力も自然についてきます。その時になると、美しいか醜いかは他人がおのずと判断してくれます。個人的な精神状態のため以外にも、私たちはもっと優しくして、理解と思いやりの心を持って人と付き合うべきだと思います。見た目というものは生まれながらにして定められています。

たとえ美しくなくても、誰もが自分の価値を持っています。お互いを尊重し、理解することが人間性の良さではないのでしょうか。

人生は長い道のりです。容姿への焦りと自己否定はこの道の障害物にすぎません。心を整理して、この障害物を乗り越えてこそ、私たちは強くなり、この道をより安定して、より長く歩くことができます。先の道はまだまだ長いですが、一緒に頑張りましょう。

# 『故郷はミックスフレーバ』

8班 王羽妃(オウ・ウキ)

皆さん、こんにちは。私の今の服装を見て、どの国の出身だと思えますか。この衣装のトップスはチャイナ風のものですが、ボトムスは日本の袴で、靴はヨーロッパの革靴です。この衣装は実は、約百年前の台湾の女子学生が着ていた服です。このように様々な文化を混ぜ合わせたものは果たして、台湾文化と言えるのでしょうか。そして、台湾文化の姿とは一体どのようなものなのでしょうか。これらの問題は、今まで何度も私の頭に浮かんできましたが、そのことに真剣に向き合おうとしたのは日本に来てからでした。この問題についてより深く語る前に、まず、この衣装のように色々な文化を含んだ私の家族の話をしたしたいと思います。

私の両親は日本に留学したことがあるため、私は小さい頃からよく日本語や日本文化に触れていました。私の家族には毎日日本のアニメを見ながら食事する習慣があり、母が作ったお弁当の中身もほとんど日本の家庭料理です。また、私の母は中国人なので、私たちに中国の方言を教えたり、中国の料理を作ったりもします。このような家庭で育った私は薄々気づき始めました。どうやら、私の知っている世界は他の台湾人とは違うものだということに。実際、学校のクラスメートが最近流行っている台湾のバンドやドラマについて話している時、私はいつもみんなが何を言っているのか、さっぱり分かりませんでした。そして、私は自分の国のことにもあまり詳しくないまま、日本に留学に来ました。

私が今通っている日本語学校は新宿にあり、その周りには台湾レストランが何軒もあります。しかし、メニューに載っているほとんどの料理は食べたことがないもので、「故郷」をあまり感じられませんでした。そのため、私はこのような台湾レストランを度々通りかかっても、実際に入ってみたことは一度もありませんでした。そしてある日、台湾の留学生の女の子とこの話題について話していたら、彼女はプンプン怒りながらこう言いました、「この間、台湾のピータン豆腐を売っている店があったけど、あのピータン豆腐は角切りにした豆腐をピータンと一緒に炒めたものだよ！おかしいでしょ？」ところが、私は一体その話のどこがおかしいのか、いまひとつピンと来ませんでした。彼女の気持ちが理解できず、私は彼女に台湾のピータン豆腐の作り方について尋ねました。すると、彼女は当然のように「半月切りにしたピータンをそのまま豆腐に乗せたのが台湾のピータン豆腐でしょ。」と答え、私はようやく納得したのです。また、インターネットで知り合ったロシア人の友達が私に台湾文化と中国文化の違いについて尋ねてきたこともありました。

私は一瞬戸惑いましたが、一生懸命説明しようとしてもうまく話をまとめることができず、この話題を適当に終わらせるしかありませんでした。

ピータン豆腐の話といい、ロシアの友人からの質問といい、このような経験が重なり、私は自分の母国である台湾についてもっと知ろうと思いはじめました。それから、私はインターネットで台湾の歴史と文化について色々と調べながら、自分と同じ疑問を抱いてきた台湾人の意見や経験談を集めました。そして、今の私は自分なりの答えを見つけました。台湾の文化とは、多種多様な文化を受け入れながら、その中で自分を見つけ出すミックスフレーバーなのだと。台湾はかつて、オランダに統治されていたことがあり、その後、中国大陸からも多くの移民を受け入れました。また、日本に植民地支配されていたこともありました。こうして、台湾は異文化に触れ合うたびに新たな特色を生み出し、新たな姿に変わっていったのです。台湾の有名な飲み物のタピオカミルクティーにしても、それは台湾の伝統的なデザートของタピオカを西洋のミルクティーと組み合わせたものです。色々な味を持つミックスフレーバーでありながら、自分だけのものを作り出すことこそ、私にとっての台湾らしさです。そして、一度自分の国の文化を遠く感じたこの私もそのミックスフレーバーの一部だと知ると、再びこう感じました、やはり私は台湾人だと。

今考えてみても、やはりこれは実に不思議なことだと思います。私は日本に来て、故郷のことについて改めて勉強し、台湾への理解を深めました。そしてこれからも、日本の生活と文化になじんでいながら、私の故郷である台湾でしか見つけられない美しさを探求していきたいと思っています。

# 『今を生きる』

9班 トーマス・ルイス・ルデン

時間は無慈悲です。止まらず過ぎるばかりで、前へと進んでしまいます。まるで終点まで止まらない電車のように。悲観的に聞こえますが、人生の終わりを意味しているわけではありません。私にとって終点とはカリフォルニアに帰国してしまうことです。一方で終点は肯定的な意味も持っています。例えば、コロナによる孤独な生活の終わりという意味です。私は今までいつも時間を気にしていました。課題の締切や、友達と遊ぶ時間や、留学の準備期間などです。何事にもいつもしっかり計画しています。しかしそれにも時間がかかりますよね？

小さい頃からの友達とよく口にしていた言葉があります。それは「時間は短すぎるね」という言葉です。7歳の時に私たちはいつも自分で作ったレゴの世界に耽っていました。少なくとも母のなじみのある「トーマスあと一時間で帰るよ」という声を聞くまでは。その時色とりどりのブロックが放っていた光はまるで太陽が雲に覆われてしまったかのように消えてしまいました。一緒に遊ぶ時間がもうすぐ終わってしまうと気づいて私たちは「時間は短すぎるね」と言いました。私たちは別れるのが寂しくてゆっくり片付け始めました。感傷に浸りながら私たちが作ったものを全て棚に入れました。その友達とは月に一度会っていましたが、その一ヶ月は子供の私にとって永遠のような気がしました。では、なぜ一緒に遊ぶ時間はこんなにも短く感じたのでしょうか？理由はもうすぐ別れると知って寂しくなったからです。別れの時が終わりではなく、別れないといけないと気づいた時が終わりになっていたのです。

カリフォルニアの大学に入学した時は、コロナが大流行していたため他の一年生とはオンライン上でしか交流できませんでした。しかし、私は寮に住んでいたため、他の人よりはキャンパスライフを少し楽しむことが出来ました。オンラインサークルでは、3年生と4年生の人と仲良くなりました。そのうちに私は日本に留学することを決めました。その友達が卒業すると同時に私は留学するつもりだったので、私達と一緒にいられる時間は限られていましたが、それでも毎日楽しみました。なぜなら同じ街に暮らして同じ学校で勉強していたので毎日会えたからです。2年間で10年分の思い出を作りました。各地のビール工場を巡ったり、お酒を飲みながらスパイダーマンの映画を見たり、遠方のイベントと一緒に参加したりしました。最後の日も特別なことはしませんでした。月曜日だったのでいつものようにみんなでピザを食べました。それはまさに私たちにとって最後の晚餐でした。最後に握手をして別れを告げました。別れは決して寂しいことではなく私たちの新たな冒険の始まりでし

た。みんなワクワクしていました。再会する時には私たちの経験を沢山話せるはずです。7歳の自分がこの光景を見たらどう思うでしょうか。電車は一つの終点があっても、それが終わりではありません。次の電車に乗り換えて前へ進むことができます！

日本に来てからも時間について考える出来事がありました。コロナにかかってしまいました。それで何も楽しいことが出来ませんでした。一番残念なことは症状より時間を失ってしまったことでした。7歳の自分に逆戻りしてしまいました。日本にいる時間は有限だときづいてしまったのです。出発したばかりの電車は早くも終点へ向かって走っていました。しかしそんな時に、カリフォルニアの友達から連絡が来ました。彼と話していて、私は日本での生活が人生の終点ではないと気づきました。日本の友達と別れてもカリフォルニアに楽しいことが待っています。カリフォルニアの友達と月曜日にピザを食べる日常へ戻れます。私の好きな映画から大好きなセリフがあります。「昨日とは過去のもの。明日とは未知のもの。今日の日はもうけもの。それは天からの贈り物。」昨日のことや明日のことばかり気にしないで！大切なのは今与えられている時間で、今なにをやるかです！

「もうすぐ終点に着きます」というアナウンスを聞いたら、7歳の私はとても寂しくなるかもしれません。しかし、今の私は違います。窓を開けて風を楽しんだり、電車の揺れを感じたり、綺麗な風景を見たりするべきです！そして終点に着いたら、荷物を持って次の電車に乗り換えます。その電車の行き先は誰も知らないのです。日本？他の国？どこでもいいと思います！

# 出場者・班長インタビュー

## 1班

リ・ユウケン  
×  
岡航希



## 班長へインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？  
— すぐふざけて、面白い笑  
Q 班ミーティング(練習)の雰囲気は？  
— 楽しくやっています！

Q 班ミーティング(練習)で難しいところは？  
— 自分たちが感覚で使ってる言葉の使い分けをしっかりと言語化すること  
Q コンテストへの意気込みをどうぞ！  
— 最優秀狙っていきます！！

## 出場者へインタビュー



Q 日本語を学び始めたきっかけは？  
— 橋本環奈さんが好き

Q コンテストに出場した理由は？  
— 班長(岡さん)がイケメン

Q スピーチを通して伝えたいこと  
— 世界平和を祈る

Q 班員に一言！  
— いつもお褒めの言葉をいただき、小生は恐縮です



# 2班

スウ・トウユウ

×

帯刀愛理



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

—とってもフレンドリーです！ 国際的なシンガーソングライターという夢のために努力していて、このスピーチコンテストの準備をしながら音大の入学試験も受けていました。ミートでも、積極的に自分がスピーチで伝えたいことや使いたい日本語を教えてください、日本語の勉強にも意欲的な方です。

Q 班ミート(練習)の雰囲気は？

—みんなで意見を出し合いながら、楽しく活動しています。真剣に取り組んでいたもので、一度のミートでの進捗度が早かった印象があります。

Q 班ミート(練習)で難しいところは？

—日本語の表現を直す時に、どうしてこの日本語の方が適切かということの説明して、理解してもらおうところ。

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

—出場するスウさんと班員で協力して頑張ってきたので、本番が終わった時にみんなが笑顔でいられるような結果をさせるように頑張ります！そのために、班長として最後まで全力でサポートします。

## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

—日本の文化が大好きです

Q コンテストに出場した理由は？

—日本の学生さん達と交流したいです

Q スピーチを通して伝えたいこと

—完璧主義はダメ

Q 班員に一言！

—いろいろなお世話になりました。

ありがとうございます！



# 4班

ワン・ジンホン  
×  
暮田詞音



## 班長ヘインタビュー

Q班の出場者はどんな人？  
—すっごい優しくて、教養があつて、みんなのことを第一に考えられて、奥さんのことを世界一愛している人！

Q班ミート(練習)の雰囲気は？  
—和やか！  
とっても良い雰囲気☺

Q班ミート(練習)で難しいところは？  
—原稿作成したり、言い方の練習するとなると、どうしてもみんながみんな、留学生のお手伝いできる環境じゃない時があるから、そこが難しいなと思った！

Qコンテストへの意気込みをどうぞ！  
—チーム一生懸命頑張ってます！会った時には、原稿ほとんど完成していたりと、本当にやる気もすごいです！チームならうまくいくよ！頑張って！！

チームしか勝たん 道を開けろ！チームが通るゾオオオオオ！

## 出場者ヘインタビュー



Q日本語を学び始めたきっかけは？

—日本で職について、奥さんと一緒に日本で楽しく過ごすことです。

Qコンテストに出場した理由は？

—せっかく日本語を学んでいるので、いろいろ一緒にできる日本人の友達を作りたいと思い、出場を決めました。

Q班員に一言！

—4班のみんなが私のことをよく気遣ってくれて、本当に嬉しいです。みんなと一緒にお酒を飲んで遊びたいとも、密かに思っています4班のみんなさん、一緒に遊びましょう！

# 5班

カオ・シャンユー  
×  
陣内薫



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

— 面白くて天才！

Q 班ミート(練習)の雰囲気は？

— 面白い人が多いのでいつも

楽しいミートです！

Q 班ミート(練習)で難しいところは？

— 沢山ある伝えたいことをまとめて、  
誰にでも伝わるように言葉選びをする  
ことが難しかったです。

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

— シャンシャンの思いが届く素敵なス  
ピーチになるように5班みんなで頑張  
ります！

## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

— 日本文化が好きだから

Q コンテストに出場した理由は？

— 日本人と一緒に何かに挑戦したい

Q スピーチを通して伝えたいこと

— 愛の叫び

Q 班員に一言！

— わたしのわがままに付き合ってくれ  
てありがとう！



# 6班

タン・ブンリム

×

佐藤 正樹



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

— 日本語力をつけるために他の団体のスピコンにも参加していてめっちゃめっちゃ努力家です！！

Q 班ミート(練習)の雰囲気は？

— 和気あいあいとやりつつも、難しいところがあったらみんなが真剣に考えるようなミートでした！

Q 班ミート(練習)で難しいところは？

— 「でも」と「しかし」などニュアンスで言葉を変える時にその理由を説明するのが難しかったです！日本語って難しいですね笑

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

— ブンリムの辛い経験を基にした感動的なスピーチで絶対優勝します！！

## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

— 3年前に私が日本に来た機会があって、一週間で横浜でホームステイのプログラムに参加しました。その時は日本語が全く分からなくて、高校生との交流会でコミュニケーションが全然取れなかったです。英語でのコミュニケーションもあまり通じなかったので、結構困りました。そのようなことがあり、日本語を学ぼうと思いました。

Q 班員に一言！

— いつも原稿を直して下さったり、忙しい中ミートに参加して下さい本当にありがとうございます。私がこの班に属しているのを本当に良かったです。





# 7班

ゴ・グンギョウ

×

工藤香佑



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

— かわいい！謙虚で一生懸命  
ですごく良い子です♡

Q 班ミート(練習)の雰囲気は？

— 明るいです！わちゃわちゃ  
してる67代を66代と68代が  
優しく見守ってくれます笑

Q 班ミート(練習)で難しいところは？

— 日本人でも自然な日本語の言い回し  
を見つけることが難しいです

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

— 呉ちゃんの素敵なスピーチがみんな  
に届くように頑張ってるサポートしま  
す！

## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

— 「あなたは煙草 私はシャボン」という歌を  
聞いて、歌の描写の境地はとてすばらしくて、  
日本語はとて美しい言語と思って、しかもとて  
も良い友達は日本語の先生で、きっとよく日本語  
を勉強して、日本に留学して、先生と同じように  
すばらしい人になりたいと思っています。

Q コンテストに出場した理由は？

— イベントに参加して人と関わり、自分の社交性  
を鍛え、さまざまな若者と意見交換をしながら日  
本語力を高めます。今回のスピーコンは留学中の貴  
重な経験になれると思うからです。

Q 班員に一言！

— お忙しい中、時間を割いてお会いできて、私の  
スピーチのために知恵を絞ってくれてありがとう  
ございます。

皆さんと永遠の友達になりたいです！



# 8班

オウ・ウキ

×

宇都宮 里菜



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

— 学ぶことが好きな子！

Q 班ミート(練習)の雰囲気は？

— みんな結構意見を出してくれて真面目に添削とかスピーチ練習を進めつつ、たまに話が脱線することもある。それが盛り上がって楽しい。

Q 班ミート(練習)で難しいところは？

— どこまで真面目にやって、どこまで雑談していいのか。雑談してばかりだと留学生を放置してるみたいになっちゃう。。

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

— 自分の班の留学生が力を出し切れるよう引き続きサポートして、賞を狙いたい！！

## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

— 両親が二人とも日本に留学したことがあるので、小さい頃から学ばせられました

Q コンテストに出場した理由は？

— ステージ上で発表することと勝つことが好きなので参加しました。

(まあ必ず優勝取れる訳でもありませんね)

Q 班員に一言！

— スピコンに参加し、そしてグループのみなさんと共に頑張ることができて嬉しいです。

本当にありがとうございます！

リハーサルでも本番でも楽しい思い出をもっと作りましょう〜٩(̄̄)٥



# 9班

トーマス・ルイス・  
ルデン  
×  
若尾修治



## 班長ヘインタビュー

Q 班の出場者はどんな人？

— いろんな話をしてくれると  
ても明るい人！

Q 班ミーティング(練習)の雰囲気は？

— 一年生が頑張ってくれてて  
いい雰囲気だと思います。

Q 班ミーティング(練習)で難しいところは？

— 英語のニュアンスを日本語で伝えること  
に苦労して、たまにみんな  
黙り込んでしまうところ笑

Q コンテストへの意気込みをどうぞ！

— 会場を圧倒させます！  
(自分が言うことではないか？笑)



## 出場者ヘインタビュー

Q 日本語を学び始めたきっかけは？

— 合気道

Q コンテストに出場した理由は？

— 楽しそうだったと思います！

Q スピーチを通して伝えたいこと

— 時間や未来について心配ないで  
ください！

Q 班員に一言！

— 色々ありがとうございます！！皆んなの手伝  
いと良く頑張れました！楽しかったですよ！本  
当に度もありがとうございました！



# 早稲田大学国際学生友好会 活動紹介

## 日本教室

留学生に日本の文化に親んでもらうため、伝統的な遊びや慣習、流行、ゲームなど様々なテーマで日本について紹介していくイベントです。共に学び、ともに遊ぶ気軽な雰囲気の中で、留学生は日本の文化を身近なものとして感じることができ、また時に私たちも彼らの国の文化を教わることが出来ます。例年は週に一回程度、定期的の実施しています。



## SHS(Short Home Stay)

様々な国籍の日本語学校の留学生と会員が2泊3日、寝食を共にし、交流を深めます。会員は日本人とは全く違う文化を持つ留学生と接することで、様々なことを学びます。また、留学生は普段あまり日本の大学生と関わる機会がないため、新鮮な体験ができます。10人程度の班行動や、全体企画、留学生と共に会員の家に泊まること等、他にはない個性豊かなイベントです。

## 国際部ガイド

毎年3月、9月に早稲田大学に留学してくる留学生の受け入れをサポートします。空港、駅での出迎え、宿泊先までの案内から始まり、その後数日間にわたるキャンパスツアーや東京案内などのイベントを通して、少しでも早く日本の生活に慣れてもらうよう手助けをしていきます。この行事は早稲田大学からの正式な依頼を受け、行っています。

## 屋台村

毎年早稲田大学ホームカミングデー(稲門祭)に合わせて行っている行事で、留学生と共に世界の料理を作り、屋台で販売します。各国料理をすることによりその国の文化を知ることができ、共に作業することで、より深く親しくなることができます。



本日は第57回留学生による日本語スピーチコンテスト  
をご観覧いただき誠にありがとうございました。  
こちらのQRコードを読み取りの上、観客賞のご投票  
をよろしく願いいたします。



観客賞のご投票はこちらから↑

#### 第57回留学生による日本語スピーチコンテスト

##### スタッフ紹介

早稲田大学国際学生友好会

幹事長 河野美波

副幹事長 速水理秀

##### 留学生による日本語スピーチコンテスト担当スタッフ

##### 棚橋梨実花

飯田真帆 大泉桐子 大倉玲汰 大塚塑楽 鈴木紫音 高山睦月

福原真希

宇都宮里菜 岡航希 帯刀愛理 工藤香佑 暮田詞音 坂間理彩

佐藤正樹 陣内かおる 若尾修治

川嶋健悟 河崎伶奈 清水綾乃 林易

宮林利玖 近藤文香

他 早稲田大学国際学生友好会一同

編集責任:早稲田大学国際学生友好会

第57回留学生による日本語スピーチコンテスト幹事

発行 :早稲田大学国際学生友好会

連絡先 :wicspeechcontest2022@gmail.com

HP :<https://www.wic50.com/>